

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年		
310004	X-21-B-2-310004	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年		
授業科目				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年		
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	2年		
国際研究ゼミナール2				【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×		
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

#### ゼミテーマ・タイトル

「働く」ことから日本経済を考える

#### 内容

皆さんに質問です。皆さんは将来、「働く」予定ですか？「働くかない」予定ですか？

おそらくは多くの人が、大学を卒業したら、ある程度の期間は「働く」だろうと予想しているのではないかと思います。それでは、その皆さん是一体、なぜ「働く」のですか？大学で身についた知識や能力を活かしてみたいと思うからでしょうか？子どもの頃からあこがれている職業があるからでしょうか？新潟県のため、日本社会のために貢献したいからでしょうか？<男だから>あるいは<女だから>働くのでしょうか？

さらに、もう少し考えてみると、「働く」のは家の<中>ですか？<外>ですか？「働く」と言っても、会社やお店でお金を稼ぐことだけが「働く」ではないですね。皆さんはどこで「働く」ことをイメージしているでしょうか？

そして、もし「働けない」時、皆さんはどうやって生活していったら良いと思いますか？

このゼミは「働く」ことを通じて日本経済について考えるゼミです。まず、皆さんには「働く」ことについて学び、「働く」ことについての自分自身の考えを持ってもらいたいと思います。経済学や日本経済論は、“とっつきにくい”“面白くない”“退屈な”“数字ばかりの”勉強に感じている人もいるかもしれません。しかしながら、実は皆さんの現在の生活、そして将来の生活にとても身近なものなのです。中でも「働く」ことはこの国で生活する多くの人の人生のうちに、必ず1度はやってきます。このゼミでは、その「働く」を学んでいきましょう。アルバイトをしている皆さん、おうちでは家事をお手伝い・担当している皆さん、そして将来社会人として「働く」ことを見据えて学んでいる最中の皆さんと、「働く」とは何か、一緒に考えていきたいと思います。

そのうえで、日本経済を「働く」ことという地点に立って眺めてみたいと思います。日本経済の理解というと、なんだか大それたことに感じるかもしれませんが、「働く」を通して、日本経済を理解していきたいと思います。

そして、このゼミでは「働く」を題材とした文献の輪読や発表から、大学での学びの基礎である、文献の読み方、アカデミックな文章の書き方、グループでのディスカッション（議論）の仕方、みんなの前の前の発表の仕方、また連絡手段としてメールの使い方などを身に付けてほしいと思います。

なお、毎回の予習・復習に、併せて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

以下の書籍の中から、履修者の関心に合せて教員が選定します。自分の分の書籍を各自用意してもらいますので、心づもりをしておいてください。  
森岡孝二（2015）『雇用身分社会』岩波新書。

森岡孝二（2013）『過労死は何を告発しているか 現代日本の企業と労働』岩波現代文庫。

高橋祐吉・鷺谷徹・赤堀正成・兵頭淳史（2016）『図説 労働の論点』旬報社。

今野晴貴・嶋崎量（2018）『裁量労働制はなぜ危険か 「働き方改革」の闇』岩波書店。

久原穂（2018）『「働き方改革」の嘘 誰が得をして、誰が苦しむのか』集英社新書。

筒井淳也（2015）『仕事と家族 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中公新書。

労働政策研究・研修機構（2018）『非典型化する家族と女性のキャリア』労働政策研究・研修機構。

岩田正美（2007）『現代の貧困 ワーキングプア/ホームレス/生活保護』ちくま新書。

唐鑑直義（2012）『脱貧困の社会保障』旬報社。

阿部彩・鈴木大介（2018）『貧困を救えない国日本』PHP新書。

岩永理恵・卯月由佳・木下武徳（2018）『生活保護と貧困対策 その可能性と未来を拓く』有斐閣。

また、大学での学び方を知るための参考文献として、近田政博（2013）『学びのティップス』玉川大学出版部。

#### ゼミの進め方

主に輪読（選定した本を履修者が順番に読んで担当箇所について発表し、分からぬことについて調べ、疑問や考えを議論すること）を行います。  
また、大学での学び方を身につけるため、文章の作成や、発表の練習も適宜行なっていきます。

#### 成績評価基準

履修者本人が担当する輪読の発表や、レポート作成についての、取り組みの姿勢や内容（50%）

授業内での発言や議論など、ゼミ全体への参加の姿勢や態度（50%）

※皆勤が原則ですので「出席」自体は評価の対象としないとともに、どのような理由の欠席についても咎めません。ただし、授業内の発言や議論など、ゼミに積極的に参加することが必須です。また、ゼミの運営に影響しますので、無断欠席は厳禁です。社会に出ていく準備段階として、大人のマナーも身につけてほしいと思います。

#### ゼミ選択上のアドバイス

大学での学びの重要な点は、“自分からつかみ取ろう”とする姿勢です。とくにゼミナールでは、教員が一方的に講義を行う授業とは異なり、履修者の取り組みが、ゼミの運営に大きく影響します。ゼミの主役はゼミ生の皆さんであり、ゼミは皆さんのが自分の意見や疑問を皆と話す場です。履修者の皆さんの個性が、ゼミの色を作っていくといつても過言ではありません。このゼミでは、誰かと協力して勉強することを楽しみたいと思っている皆さんの履修を期待します。大事なことは、何事に対しても「なぜ？」をたくさん考え、そして、とにかく恥ずかしがらずにいっぱいしゃべることです。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

#### その他

ゼミをはじめとして、大学での学びには、答えがない問い合わせ、もしくは答えが1つではない問い合わせたくさんあります。また、その答えがすぐにはわからず、もしかすると大学を卒業してから初めてわかるような難問もたくさんあります。4年間の中で、そのような難問に1つでも多くぶち当たってください。

本ゼミでは、輪読の仕方や、発表の仕方など、大学での学び方の基礎はゆっくりとじっくりと履修生みんなで学んでいきますので、履修前の段階で分からぬことがあるても心配はいりません。ただし、“チャレンジ”が好きな人、“チャレンジ”に躊躇しない人の履修を期待します。また、今まであんまり人と話したり、議論したりするのは得意ではなかったという人でも、「話してみたい」「議論してみたい」という意思があれば、是非履修してみてください。「自分も○○してみたい！」の気持ちをもつ人を歓迎します。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年		
310004	X-21-B-2-310004	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年		
授業科目				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年		
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	2年		
国際研究ゼミナール2				【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×		
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

#### ゼミテーマ・タイトル

激動の中東を読み解く—なぜテロ事件は多発するのか—

日本の外国人と多文化共生について考える

以上2つのテーマを取り上げる。

#### 内容

2015年、フランスで2つのテロ事件が起こった。それに先立つ2005年のパリ郊外の移民暴動とは異なる事件である。この10年間にフランス社会はどう変わったのか。フランスという国の歴史と現在を、フランス帝国主義の歴史と移民問題を中心に考える。

第2に、2011年1月に勃発したチュニジアのジャスミン革命とその後の中東諸国での「アラブの春」と呼ばれる民主化のうねりをたどる。しかしそれは現在シリア内戦とイスラム国の出現という事態に立ち至っている。シリア内戦はアサド政権と反体制派、さらに過激派組織ISの3つどもえのアクターが複雑な戦闘状況を生み出しており、シリアから大量の難民がヨーロッパに押し寄せている。このような中東の混迷状況は2001年の9.11事件とその後のアメリカによる対テロ戦争（イラク戦争）にまで遡らなければならないであろう。

最後に、以上のような中東とヨーロッパの歴史的対立の構図から生み出されている国際社会の問題は、日本とはどのようにかかわっているのだろうか。日本という国についても考えてみたい。

#### 1. フランス帝国主義とテロリズム

2005年秋の移民暴動

2015年1月シャルリ・エブド事件

11月パリ同時多発テロ

#### 2. 2011年「アラブの春」—その後

チュニジアのジャスミン革命

エジプト

リビア

シリア内戦

#### 3. イスラム国（過激派組織IS）の出現とその背景

#### 4. 日本の外国人労働者問題（移民政策）—フランスの移民問題との比較

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

#### 1. 谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史—国民国家形成の彼方に』ミネルヴァ書房

J-F.ゲイロー,D.セナ、私市正年訳『テロリズム歴史・類型・対策法』白水社（文庫クセジュ）2008年

山本三春『フランス ジュネスの反乱』大月書店、2008年。

パトリック・フォール・ジャン・フィリップ著、小林修訳『ジダンー物静かな男の肖像』阪急コミュニケーションズ、2010年

鹿島茂ほか編『シャルリ・エブド事件を考える』白水社、2015年

#### 2. 宮治一雄・宮治美江子編著『マグリブへの招待—北アフリカの社会と文化—』学図書出版

パンジャマン・ストラ著、小山田紀子・渡辺司訳『アルジェリアの歴史』明石

書店

水谷周『アラブ民衆革命を考える』国書刊行会

酒井 啓子 編著『〈アラブ大変動〉を読む—民衆革命のゆくえ』東京外国语大学出版会

#### 3. 常岡浩介『イスラム国とは何か』旬報社、2015年

別府正一郎・小山大祐『ルボ過激派組織IS—ジハードイストを追う—』NHK出版、2015年7月

#### 4. 依光正哲編著『日本の移民政策を考える—人口減少社会の課題—』明石書店、2005年

陳天璽『無国籍』新潮社、2005年

根本かおる『日本と出会った難民たち 生き抜くチカラ、支えるチカラ』英治出版 2013年

桜井啓子『日本のムスリム社会』ちくま新書、2003年

店田廣文『日本のモスク』山川出版社、2015年

など

#### ゼミの進め方

第1回目のゼミで、テキスト輪読のための各自の報告分担を決める。毎回、報告者は担当個所のレジュメを用意して配布し発表する。報告の当たっていない学生もテキストを読んできて、必ず1回は質問や意見を述べ議論に参加する。各テキストを読み終える毎に、レポートを作成し提出もらう。

#### 成績評価基準

ゼミでの報告内容、レポート、出席状況、ゼミ活動に意欲的に取り組んでいるか等により総合的に評価する。

#### ゼミ選択上のアドバイス

今世界で何が起こっているのか、そしてそれは私たちの生活とどのように関わっているのか、この二つの問題を結びつけて考えたいと思っている人はこのゼミを選択してほしい。政治・経済・社会のあらゆる分野でグローバル化が進む現代にあって、私たちは世界各地で起こっていることに無関心ではありえないはずだ。毎日、新聞やテレビなどから送られてくる世界の情報を敏感にキャッチする眼を養い、私たちの生きていく道をひとりひとり考えてみよう。

実務経験のある  
教員による授業  
科目有無

×

実務経験と授業科目との関連性

アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施

×

#### その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310004	X-21-B-2-310004			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員						
国際研究ゼミナール2	臼井 陽一郎	2	後期				

#### ゼミテーマ・タイトル

##### 考え方について考える

##### 内容

自分について、世界について、どのように考えていいかの。このゼミでは、特定の知識を自分の脳に保存するための学習ではなく、何をどのように考えればいいのかを考えるためのきっかけ作りを目指し、それを参加者の間で共有していきたい。

ゼミで実施するワークの例：

自己紹介—いま自分に足りないこと・絶対に手に入れたいこと・ひとを幸せにすること

写真を読む—物語を読み取りメッセージを見出す

動画を観て文章を書く—映像の中で何が生じているのかをつかむ

難民問題について—誰の責任か・誰が救済すべきか・日本は何をすべきか

シリア難民の臓器売買—臓器を買う売人と売る難民は悪を為しているのか

エッセイコンテスト—描写の具体性・論理の説得力・主張の訴求力・文の柔らかさ・無条件の魅力

テキストを読む—入門政治学 365 日・戦争に負けないための二〇章・ダウン症をめぐる政治

音楽を聴いて文章を書く—忌野清志郎・ジョンレノン・発達障がいをもつピアニスト

自分の価値観を探る—理想の自分像と理想の人間像を比較する

政治家のスピーチを聴く—トランプ・サンダース・斎藤隆夫・チャップリン

小説を読む—ドストエフスキイ・トーマスマン・大江健三郎・中上健次など。

400 字課題：400 字ぴったりで下記のテーマを自由に論じる（主語に一人称は使わない・語尾に思う思った感じる感じたは使わない）人間について・希望について・絶望について・身体について・精神について・社会について・政治について・世界について・正義について・自由について・公正について・不安について・平等について・理想について・秩序について・歴史について・テロについて・権力について・戦争について・責任について なお、400 字課題含めて、毎回 4 時間相当の予習／復習が必要になる。

##### 使用予定テキスト

適宜授業中に指定する。

##### ゼミの進め方

毎回ゼミ内で課題を出す。A3 版用紙一枚でその課題への応答を表現してもらう。絵を描くのでもかまわない。

##### 成績評価基準

ゼミ内で実施する課題 50%

ゼミ外で実施する課題（400 字課題）50%

##### ゼミ選択上のアドバイス

ゼミの中でぼつんと一人、だれとも喋らず座っているだけでもよいです。頭の中で・心の中で、しっかりと考え方抜いてください。イツメンと一緒に来て机の上にカバンおいて先生から手元が見えないようにしてスマホで LINE やゲームに精を出し、限られた生命の時間を湯水のように無駄遣いするのでもかまいません。ただ、ふとした瞬間にゼミでやったことのほんの一部を一瞬でも思い出したなら、それにこだわってください。人間なる存在が生きているという事実がもつさざまな凄さ・切なさ・怖さ・素晴らしさに自然と意識が向かっていくその一瞬を、しっかりとらえられる学生になってもらいたら、とてもうれしくおもいます。

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

##### その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310004	X-21-B-2-310004			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員	2	後期				
国際研究ゼミナール2	熊谷 卓						

#### ゼミテーマ・タイトル

「法的な思考（リーガル・マインド）を深化させよう！」

#### 内容

##### ゼミの内容(目的も含む) :

賃貸借契約、遺言、黙秘権、表現の自由、条約、ということばに共通するものはなにか、と問われれば、なんと答えるだろうか？「法」とか「ルール」という答えを想定することができるとは思わないだろうか。より細かく見れば、それぞれ民法（借地借家法）、刑法（刑事訴訟法）、憲法、国際法といった具合に。そして、われわれは実は様々な場面でこの法と関わっていることができる。

ところで、ほとんどのみなさんは民事法そして刑事法的にみて、「未成年」最後の年に2年次生ゼミナールに参加することになると思う。その翌年には、およそすべての法律の容赦ない適用対象となってしまう。そのため、原則として、もう少年（少女）Aではない。その前にできるかぎり、法というものの考え方に対する接しておくことは決して無駄ではないと、思うのであるが、どうであろうか？

そこで、このゼミナールは、各ゼミ生の法的な思考をより深めてもらうことを主要な目的とする（それは同時に3／4年次ゼミナールへの橋渡しとなる）。

具体的にいようと、次の二つのテーマ、

①性同一性障害者をめぐる問題（自己と異なる他者に対する配慮とは）および

②死刑廃止の是非に関する問題（責任の取り方とは）

について、じっくりと、深く検討する予定である。

さらに、時間が許せば、

男女区別の是非（レディース・ディとは男性に対する差別か、適法か）、

美容整形に納得がいかないときの慰謝料（美の基準とは、医療過誤とは）、

児童の権利などの問題についても検討し、ゼミ生とともに議論をしたいと思う。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

別途指示する。教科書販売にて事前に購入し、初回ゼミに持参ください。

#### ゼミの進め方

上記のテーマに関して、ゼミ生のなかから報告者とコメントを決める。彼らの議論を土台としてその他のゼミ生はテーマにつき、理解を一層深め、議論を進める。

レポートの提出も適宜求める。

なお、報告のやり方、レポートの書き方についても、十分に時間をかけて説明をする予定です。安心してください。

#### 成績評価基準

報告やレポートの良し悪し（50パーセント）、ゼミへの参加度（単に出席しているという意味ではない）（50パーセント）を基準に成績をつける。

#### ゼミ選択上のアドバイス

「内容」からすると、「面白そうな」（気楽な）ゼミに見えると思いますが、「面白い」と感ずるかどうかは、皆さんの勉強量にかかっています。

「法律は面白い」と感ずるまでにはハードワークが要求されます。それでもよい、という人を歓迎します。

どうぞよろしくお願ひいたします。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		必要な場合、実施することあります。

#### その他

食事会を行うことがあります（飲み会はできませんから（笑））。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年		
310004	X-21-B-2-310004	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年		
授業科目				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	2年		
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	2年		
国際研究ゼミナール2				【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×		
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

#### ゼミテーマ・タイトル

「現代の社会問題と私たち」(前期・後期同一テーマ)

#### 内容

国際研究ゼミナール1・2は基礎ゼミナールの延長線上にあると僕は考えています。ものを読み、考え、議論し、それを文章にまとめるという作業は基礎演習と同じです。しかしこのゼミで中心になるのは基本的な読解力を前提とした上での議論です。

今年度の細かいテーマは未定です。ただし「現代社会は多くの問題をかかえていて、その多くの問題と人間一人ひとりが生きにくいという事実は関連している」という基本的認識をはずれることはありません。特に先進資本主義国に特有の諸問題を取り扱う予定ですが、どんな事例を議論するときにも他人事としてではなく自分の問題として考えることを要求します。

たとえば現在、世の中で多くの人が殺されています。その「殺人」という行為には変わりがなくとも、それら多くの殺人を私たちは細かく差異化していくきます。テロリストによる虐殺、法治国家における死刑、正当な防衛行為、教育の「行き過ぎ」としての体罰、英雄的戦功、医療過誤、テロ根絶のための必要悪、反逆者の処刑、武装蜂起に対する秩序維持……など、呼び方はいろいろです。しかしそのすべての行為が「人が人を殺す」という点においては同じです。こうした呼称の差異という問題は、そのままそれらの人殺しという行為と私たちの関係を明らかにしていくはずです。その関係の総体が現代社会を構成していると考えられませんか。

こうしたことについて「そんなもん知るか。全部違うのは当たり前だろ」と言って開き直るのは、現在の社会のありかたをまったく批判していないということです。目の前の世界を「快適」だと思いこんでいるということで、それは実は何も考えてないということを表明しているだけです。酸素を吸って二酸化炭素を吐いているだけです。マレーシアの森林資源のためになっているでしょうが、人生の意義は限りなく低いでしょう。何かを考えて1日生きると、何も考えずに5万年生きるのを比較すれば、それは前者のほうがはるかに人間として意義深いと僕は考えます。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

田中克彦 『ことばと国家』 岩波新書

鶴見俊輔 『戦時期日本の精神史』 岩波書店

小倉千加子 『セックス神話解体新書』 ちくま文庫

フロム 『自由からの逃走』 東京創元社

杉田敦 『デモクラシーの論じ方』 ちくま新書

以上を候補としていますが、初回に参加者と相談して決定します。

#### ゼミの進め方

テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、内容の要旨を報告する「レポーター」と、その内容を批判する「コメンター」を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのみつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

#### 成績評価基準

出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。

#### ゼミ選択上のアドバイス

自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そのところをよくよく考えてください。勉強したい人、議論したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

#### その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310004	X-21-B-2-310004			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員						
国際研究ゼミナール2	澤口 晋一	2	後期				

#### ゼミテーマ・タイトル

新潟の地理を題材に、調べ、分析・整理し、プレゼンする力を養う。

#### 内容

ゼミや卒論指導で学生と接して毎年強く感じることは、今の学生は（昔からそうだったのかもしれないが）「自分で調べる力が圧倒的に弱い（あるいはその気力がない）、ということです。テキストを講読しても書かれてある文章を短くして言うだけで、それはどういうこと？と問うとほとんど何も答えられない、つまりわかっていないのである。説明するということがどういうことか理解できていないのである。これでは講読（発表） 자체が無意味である。

このゼミでは、新潟に関する地理的事象を1000字ほどで記述した簡略な文章の中からより深く調べられる記述を複数選定してもらい、それをできる限り詳しく調べなおして、発表するというものです。そのために時間をかけて色々な資料を探しだしてもらいます。その資料を内容に応じて加工し、資料にものを言わせる形で整理しまとめてもらいます。発表までに私との個々のやり取りを最低でも3回行い、内容をより深く充実したものとしていきます。このような過程を通じて、資料の扱い方とプレゼンの方法を学んでもらいます。発表までの準備期間は最低でも3週間かけてもらいます。付け焼刃で準備したものは報告させません。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

鈴木郁夫・中田 勝・田中和徳『新潟ものしり地理ブックⅡ』新潟日報事業社 2013年

#### ゼミの進め方

1回のゼミで2人発表。発表には必ずパワーポイントを使用します。

#### 成績評価基準

取り組み姿勢、発表内容、レポートにより評価。

#### ゼミ選択上のアドバイス

地理的な事項に興味・関心のある人が望ましいが、それ以外でも調べる力を身に着け、パワポで発表するというスキルを身に着けたい人。

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

#### その他

上述したように、発表は全員パワーポイントを使用します。今は、企業でも官公庁でも会議等での報告はほぼパワーポイントを使用します。効果的でわかりやすいパワーポイントの作成技術が誰にでも求められています。パワポを否定的にとらえる教員もまだいますが、それは時代錯誤といつていいでしょう。パワポの発明と浸透によって、少なくとも理系・情報系の分野のプレゼンは革命的に変わったといって過言ではありません。このゼミでは、どうやって効果的なパワポ画面を作成し、それをどう使いながらプレゼンするのか、といったことも、個々人に丁寧に指導します。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310004	X-21-B-2-310004			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	2年 2年 2年 × × ×
授業科目	担当教員	2	後期				
国際研究ゼミナール2	瀬戸 裕之						

#### ゼミテーマ・タイトル

東南アジアについて学ぼう－地域形成と日本とのつながり－

#### 内容

##### 【ゼミの目的】

本ゼミでは、東南アジアの地域形成を学びながら、日本とアジアについて考えることを目的とします。

東南アジアは、現在、世界の中でも経済発展が目覚ましい地域であり、日本企業も多く進出しています。また、毎年、多くの観光客が訪れており、日本との関係が深い地域です。さらに、ASEAN 共同体など国境を越えた経済協力が進みつつあり、今後の展開が注目されています。

一方で、東南アジアの多くの国が、かつて植民地として外国に支配された経験があり、1990 年代になるまで冷戦下で激しい戦争を経験した紛争地域でした。さらに、冷戦後に経済発展が進みつつも、民主化や人権の保障には、まだ多くの課題を抱えています。

今後、東南アジアは、どのような方向に発展していくのでしょうか。また、日本は、それにどのようにかかわっていくべきなのでしょうか。安全保障や経済関係という視点を超えて、東南アジアとの間でより深い関係をつくるためには、東南アジアがどのように形成されてきたのか、日本と東南アジアがどのような位置づけにあるのか、という点について、長期的な視点から考えてみることが重要であると考えます。

本ゼミでは、東南アジアに関する本（新書）と一緒に読みながら、東南アジアに対する理解を深めたいと考えています。

##### 【ゼミの予定】

岩崎育夫著『入門 東南アジア近現代史』（講談社現代新書）を読みます。学生の間で担当を決めて、担当する部分についてレジュメを作成して発表してもらいます。その後に、学生の間で質疑応答を行います。東南アジアに関する基礎知識を身につけるとともに、ゼミ報告の方法についても学びます。

毎回の予習・復習に、合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その結果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

岩崎育夫著『入門 東南アジア近現代史』（講談社現代新書）、講談社、2017 年。

※受講者に、必ず購入してもらいます。

#### ゼミの進め方

学生が本の担当部分についてレジュメを作成し、ゼミで報告します。それに基づいて、学生の間で質疑応答を行います。必要に応じて、教員が情報を補足します。

#### 成績評価基準

学生によるゼミへの参加と報告内容に基づいて成績を出します。具体的には、(1) ゼミへの出席・授業態度 (25%)、(2) 担当した章に関する発表内容と取り組みへの姿勢 (50%)、(3) ゼミでの発言やディスカッションへの参加 (25%)、に基づいて評価します。

#### ゼミ選択上のアドバイス

本ゼミの受講者は、毎年前期に開講される「現代東南アジア論」を受講することをお勧めします。

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

#### その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習